

新型コロナウイルス感染拡大の状況における大学の対応について(山口大学)

1. 新型コロナウイルス感染症に対応して、教育課程の実施、授業の方法等について、学生の学習の質を維持するために行った取組の概要を確認したい。

大学回答欄

感染拡大当初、急に実施することとなった遠隔授業を支援するために、2020年3月に教育学生担当副学長を中心とした教職員を構成員とする「授業支援対策チーム」を設置し、遠隔講義に関する情報収集及び共有、技術的支援、連絡調整等を行った。

「対面授業実施のガイドライン」及び「オンライン等を活用した授業に係る留意事項」を定め、その時の感染状況に応じて内容を検討し、対応している。
現在は、原則、感染防止対策を講じた対面による授業を実施することとしているが、対面による授業が困難な場合またはオンライン授業の教育効果が明らかな場合は、授業の全部または一部についてオンラインによる授業も可能である。

学生・教員用の遠隔講義関係情報プラットフォームである「遠隔講義ポータル」を開設し、遠隔講義実施ツール(修学支援システム、Moodle、Zoom、Webexなど)別のマニュアルや事例紹介コンテンツを収集・掲載し、円滑な授業実施を進めた。

令和2年6月に遠隔講義の受講状況及び実施状況を把握することを目的に学生及び教員へ遠隔講義に関するアンケートを実施した。アンケート結果については、全学会議で共有し、遠隔講義の改善等に役立てる基礎資料とした。

教員の要望に基づき、オンライン授業の質向上を目的とした「オンライン授業づくりのためのランチョンFD研修会(4回シリーズ)」を開催した。延べ500名近くの参加者があり、本FD活動を通じ、対面によらない新しい授業方法の理解が深まり、ニーズに合致した満足度の高い内容となった。

教育学部においては、教育学部生と子どもたちが密に関わり合う機会を提供し、オンラインの特性を生かして新しい遊びや交流のカタチを創出するきっかけを提供するオンライン学童保育「大学生とおうちで遊ぼう！」に取り組んだ。

工学部では、学科横断的に設定された科目「創成デザイン工学(特論)及び演習」において、ヤフーの人気共創コンペティションイベントである「Hack U」を率いる中村友一氏等の指導により、ハッカソン形式のイベントをオンラインにて開催し、令和2年8月12日に開催したオンライン発表会においてヤフー側及び大学関係者の採点により受賞作品3件を選定した。なお、本学の知財センター関係者も参加し、知財化の検討も行っている。日本を代表する企業の指導をコロナ禍でも逸することなく、教育効果を上げることができた。

創成科学研究科においては、令和2年8月22日から26日まで、日中韓3ヶ国7大学の学生が一つの多国籍チームを組み、テーマに沿ったメカトロニクス・AI・IoT・ロボットシステムなどのプロトタイプを共同作業で企画・設計・製作・発表するSP!ED (Summer Program for Innovative Engineering Design :ものづくり創成デザイン夏の学校)をオンラインで開催し、非対面によるチームワークによりテーマに沿った作品を作り上げた。

技術経営研究科においては、360度カメラによるリアルタイムの映像により、その場にいるかのような疑似体験を提供し、日本にいながらにして海外研修を実感するバーチャルPBLを試行した。

2. 新型コロナウイルス感染症に対応して、学生の学習及び生活の支援について行った取組の概要を確認したい。

大学回答欄

各学部に、学生の健康状況、学習状況、心のケアを主な役割とする「学生ケアチーム」を配置した。また新生が、より身近な先輩学生から、授業や大学生活に関して気軽に相談や助言を受けることができるように、「新生生サポーター」を配置し、新生の学生生活の適応援助を行った。

学生食堂内の窓に網戸を設置し、常時換気が行えるようにした。また、アクリル板等で各席に仕切りを設置し、食事を介しての感染拡大防止を図った。

障害等のある学生の修学支援を担当する学生特別支援室では、遠隔での支援実施環境を整備した。
●対面での面談に代えて、オンライン会議システムを活用したオンライン面談、修学状況を確認するためのメール配信を行うなど、遠隔での相談対応環境を整備した。
●障害等のある学生への修学支援として、遠隔授業に関する支援実施および三密を避ける支援のため、支援機器の貸出や遠隔サポート要領の確認など、遠隔支援環境の充実を図った。

就職相談はこれまで対面で実施をしていたが、コロナ禍による入構規制対応としてオンラインでの相談も可とした。入構規制が解除となった後は対面での相談を再開させたが、外出や対面に不安を感じる学生のために引き続き、オンライン対応も継続している。また、学内企業説明会や学内企業・企業研究会もオンラインで実施した。

その他、自宅アパートのWi-Fi環境が悪い学生のために就職支援室の部屋を貸し、企業とのオンライン面接が出来るように対応した。

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、学資負担者の家計の急変や、アルバイト等の収入減などによって生活が困窮する学部・大学院の学生(留学生を含む)を救済するため、令和2年度限りの緊急措置として1億円規模の、返還を要しない「新型コロナウイルス対策緊急学生生活支援給付型奨学金」を新設し支援を行った。

また、「授業料支援制度」を創設し、災害・事故等で家計が急変し学業の継続が困難となった学生に半期分の授業料支援を行っている。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け経済的に困窮する学生に対してもこの制度を活用し支援を行った。

令和3年3月に就職活動や課外活動、帰省等により県境を越えて移動する学生が安心して学生生活を送ることができるよう、山口大学生生活協同組合と連携し、新型コロナウイルスへの感染を不安に思う学生がPCR検査を受検できる体制を学内に整備するとともに、その検査料の一部を支援している。

NPO法人との共催により、新型コロナウイルス感染拡大の影響により思うようにアルバイトができず経済的に困難な状況にある学生400人に1人当たりお米やインスタント食品など10品の食品支援を行った。